

此の措置に対する反響としては、理論的には概ね異論はないが、その運用上地方産業及見返物資には特別の考慮を払うこと（名古屋、岡山、高知、京都、松山、金沢、札幌）、共同融資は枠外処理とすること（名古屋、松山）、中小工業に対しても特別の配慮を行う要あること（岡山）等が要望されている。然し反面重点業種よりの流用（熊本、高知、松本、小樽）、十万円以下協議不要の悪用（高知）、閥金融の増大（福岡、松江、熊本）、等の弊害が危懼せられている。

一般に高順位業種に対する貸出は収益性回転率、安全性の諸点から見て歓迎せられず（金沢）、本行幹旋の共同融資も若干の成果を挙げてはいるが（松江、松山、金沢）、市中金融機関の之に対する態度は極めて消極的である（名古屋、静岡、松山）。之を要するに今回の貸出規制の成否は預金増加及び既存貸付の回収如何に懸り（名古屋）、その真の反響を見極めるには尠くとも尚一ヶ月の日時が必要であろう（大阪）。

金利も引続き上騰傾向を辿り、日歩平均二銭内外（前月比約二厘高）のものが多く、閥金融の場合は大体月利二割程度に上つてゐる。

四、財産税

財産税納入に就ては約半額は物納と見込まれていた様であるが（例えば仙台五三%、新潟四五%）、三月末迄の実際は、予想に反し物納は極めて僅少であり、更に金納部分中の大半は第一封鎖預金の払出に依つてゐる。例えば石川、福井、富山の三県に於ける月末現在国庫移納手続済額は合計三億四千二百万円の内現金及自由支払分は夫々総額の五%、封鎖支払は九〇%を占めてゐる（金沢）。亦各店共財産税納付関係融資が相当額に上り、納付金額に対し大阪七一%、京都四六%、金沢四一%という割合になつてゐる。

財産税及増加所得税の納入には相当苦慮の跡が窺われ、土地、家屋等の売買が目立つてゐるが、第三国人が實際上課税対象外とせられたことは彼等の地位を競争上、愈々有利ならしめてゐる（函館）。

五、通貨

右の状況を反映し、各店共銀行券の発行超過極めて顕著にして、大半は昨年十二月以来の記録を示している。而して、之が原因としては年度末関係の政府資金

撒布超過、第一封鎖預金棚上説に關聯する生活費引出の増加、春耕資金、選挙資金等の資金需要が重つた上に、貸出から事実上閉め出された低順位産業が自由預金から逃避する傾向を生じたこと（金沢、静岡）等が挙げられるが、一方に於て財産税、増加所得税等によつて民間資金の大口回収があつたにも拘らず、かく銀行券の著増を見たことはインフレーションの底流が如何に根強いものであるかを物語つてゐる。又斯くの如き急激な膨脹に対してすら国民が無感覚になつてしまつたことは注目し得る事実であろう（大阪）。（加藤）

昭和二十二年四月——六月

一、概況

四 月 中

衆議院議員総選挙に於て社会党は第一党に進出したが、現下の経済情勢に制約され、其の意図する政策を其儘実施することは困難なりと見る向多く、同党の「新円再封鎖せず」との声明も手伝つて、懸念された通貨不安も起らなかつた（秋田、松山、札幌、静岡、松江、大阪）。亦月末発表された七百円の枠撤廃も新円経済への一歩前進と云う意味で好感を与えたものの（熊本、鹿児島）既に予想されていた処で、格別の影響も認められなかつた（札幌、静岡）。生産は依然として低調に終始し、北海道、九州に於ける出炭高は夫々五十五万噸、百十五万噸と前月を下廻つた（札幌、福岡）。従つて地方産業も燃料不足、原料枯渇に悩むもの多く、四国製塩業の如きは能率上がらず赤字に苦しんでゐる（高松）。岡山県下の衣料工場は多数のミシン機械、従業員を抱え今後の対策に苦慮してゐる（岡山）。次に強権発動を見るに至つた供米状況を見るにその成績は依然芳しくなく、殊に米作地帯たる新潟、秋田両県に於ては月末迄に漸く割当量の九〇%、九四%に達したに過ぎず（新潟、秋田）超過供出を見た府県に於ても輸入食糧の放出にも拘らず遅配を見る等（松山、甲府、前橋）地方の食糧事情も樂觀を許さないものがある。

二、預金

財産税、増加所得税と相踵ぐ納税資金の引出に第一封鎖預金は引続き減少の一

途を辿っているが、三月異常な増勢を示した自由預金も四月に入つては伸び悩みの模様である。之が原因としては

- (1) 増加所得税の徴収を見つゝあること(秋田、高松、松山、鹿児島、大阪)。
- (2) 選挙運動費が引出されたこと(小樽、函館、秋田、高松、門司、名古屋)。
- (3) 水産物買付資金等季節資金の引出を見たこと。之は鯉漁期に入つた北海道に於て著しい(小樽、函館)。
- (4) 耕作期を迎え農家の預金引出旺盛で、特に農業会貯金の減少が目立つこと(松山、鹿児島、甲府、名古屋)。
- (5) 三月末決算に際しての粉飾預金が月初に減少したこと(金沢、京都、静岡、松江、大阪、名古屋)。

等が挙げられる。

尚景品付預金として前回好評を博した福德定期預金が再び募集せられたが、前回多額の消化を見せた農村も増加所得税により余裕なきこと、景品がマッチ、サツカリンの如く魅力乏しいこと等に基因して、消化成績芳しくなく(秋田、前橋、甲府、岡山、門司、高知、松山、福井、富山)、京都、滋賀両府県に於ける消化額は三千五百万円と割当額五千四百万円の六五%に過ぎない(京都)。之に反し、秋田県に於て試みられた同県振興定期預金は報奨物資が自転車、シャツ、石鹼等一般に歓迎せられるものなることと、其の吸収資金の地元還元と云う具体的目標が与えられていること等のため、総額一千万円の期限内消化は確実と見られている(秋田)。

三、貸 出

財産税、増加所得税等納税資金の預金引出に金融機関の手許は窮屈なりし為め、貸出は三月に比し増加を示したものの概して融資規制による枠の範囲内に止つた模様である。然し一部地方に於ては漁業、炭礦、木材等季節資金の需要増大に貸出限度の枠を超えた向もある(松本、札幌)。

尚前月中に於ける融資規制実施状況を見るに、次の如き結果が判明した。

- (1) 資金不足により貸出限度を本月に繰越している(各店)。
- (2) 丙種事業に対する貸出が漸次擡頭している(函館、金沢、名古屋)。

各支店金融報告抜萃 昭和二十二年四月—六月

- (3) 丙種事業に対する貸出は大部分自由預金担保である(函館、広島、松本)。
- (4) 甲種事業に対する貸出も米穀、衣料、木炭等配給機関関係が多い(函館、熊本、高知)。

- (5) 支店銀行の貸出増加は地元銀行に比し少い。之は支店銀行が本店より融資限度の配分がない為め、新規融資に極めて消極的であることに因る(函館、甲府、松本、札幌)。

四、増加所得税

増加所得税の四月末に於ける徴収成績を見るに、本行各支店の受入額は査定額の二割乃至五割程度に過ぎず(仙台、門司、松山、高知、静岡)、而かも其の大部分が小口のもののみである(小樽)。大口のものは異議申立或は延納手続を行っているが(福岡、門司、神戸、岡山、松山、前橋、仙台)、之の原因としては

- (1) 増加所得の大部分を商品、不動産等に換物せる結果納税資金を所持せざること(青森、小樽、仙台、岡山、松山)。
- (2) 新円所得の把握が困難なる為め税務当局の査定が不公正であること(京都、岡山、鹿児島)。

- (3) 商工業者は日歩四銭の滞納利子、或は年一割の延納利子を支払つても商品が値上りする限り延納を有利と見ていること(新潟、高松、静岡)。

等が挙げられる。
尚今次の増加所得税徴収に際し新円所得層中には国家が開取引を公認したと称し、納税資金調達のために更に闇売を行つた向もあると伝えられている(高松、前橋)。

五、通 貨

右の如き状況を反映し本行各支店に於ける銀行券の増勢は一般に鈍化し、京都、熊本、前橋の三支店に於ては、還収超過を示した程である。然し、小樽、青森、福岡等一部の地方に於ては、炭礦の賃銀、供米代金預金払戻等現金支払が多かつた為め前月を上廻る発行超過となつた。

六、物 価

年末以来昂騰を続けて来た各地の物価は中旬以後出廻りに際会した野菜類の反

落に伴れ稍々頭打ちの感があり(札幌、熊本、岡山、大阪、鹿児島)、特に関西地方に於ては二割乃至五割の下落を示した(神戸)。之は貿易再開クレディット供与説、主食三合配給説等により落着き人気が呼んだこと、一般消費者の購買力が枯渇したのみならず、取締強化に關商人の収入も減少したこと、強権発動による供米に農村も金詰りを來たしたこと、増加所得税の徴収により手持品売却を余儀なくされたこと等の諸原因が重つたものと見られる。之を機として尼崎市に発生した物価引下運動は全国各地に拡つたが、値下げを実施せるものは不急不要品か、数量多きものに限られて居り、一般に中間商人の苦肉策とみる向が尠くない(青森、高知、門司、高松、松山)。一方運配により米麦価格は寧ろ急騰し(小樽、函館)、又煙草、郵便料、電気料金等公価の大幅引上を見たため、地方に於ける物価先高人氣は依然根強いものがある(金沢、門司)。(黒崎)

五月 中

一、概 況

片山新内閣成立に至る迄、政局は混迷を続けたが、四党政協協定の成立により新円再封鎖、国債利払停止は行はれざることゝなつたため、通貨、預金に対する不安も漸く薄らぎ、換物傾向も目立たなかつた。然しながら物価は再び顕著な昂騰を示し、又主食の運配累計日数も函館市の四十五日、北九州の十九日等各地共増加し(函館、門司、福岡)、之が為め石炭入荷の順調と電力事情の好転に集中生産の効果を期待された八幡製鉄所も作業能率低下し、銑鉄一万六千噸、鋼材一万四千噸と生産目標に比し夫々八七%、九四%の達成率に止つた(門司)。斯くて中小企業は資材難はストックの枯渇、統制の強化も手強い一段と深刻化し、生産も四月以来減少に向ひ、稼働率も三〇%乃至四〇%に過ぎず(熊本)貸出抑制に伴う資金難と相俟つて閉鎖或は縮小するもの漸次増加するに至つた(前橋)。

二、預 金

財産税、増加所得税の徴収一段落と政府撒布資金の滞溜、水産物代金の預入等により自由預金の増勢は都市方面を中心として回復の兆を示して來たが(札幌、大阪、甲府、高知、高松等)春耕期に際会せる農村方面は肥料、農機具等買入資金需要に依然不振な状態にある。特に一部市町村農業会に於ては農民組合出身の

役員が選任せられたため、自由預金の半ば近くが引出された処もある(岡山、高松、鹿児島)。尚預金の秘密性確保の爲め六月一日より実施せられることゝなつた無記名定期預金は利子に対する六割課税の爲め不評の模様である(札幌、函館、秋田、静岡、熊本、松本)。又同日より実施せられることゝなつた定期預金の利上も年一、二厘の程度では所謂新円階級の資金を吸収すること極めて困難なりとし殆んど期待を持たれていない(静岡、松本、福井、高知、甲府、神戸)。

七百円の枠撤廃は愈々今月より実施されたが、封鎖預金よりの生計費払戻は四月に比し半減し又貸銀支払も左して増加を示さず、銀行券増発には殆んど影響がなかつた。又金融機関の窓口事務も軽減され、貯蓄吸収に好結果を齎らしている(小樽、静岡、京都、大阪、鹿児島)。然し事業家方面では事実上第一封鎖預金の棚上げであるとし、封鎖取引を忌避する傾向を強め(前橋、神戸)、封鎖貸出は益々魅力を失つている(札幌)。更に食糧事情の悪化に伴い貸銀値上げ要求も漸次再燃せんとし(門司)農家の生活費引出が認められなくなつたことは一般的預金不安を醸し、自由預金への預入手控傾向を強めたことも否めない(熊本)。

三、貸 出

第一封鎖預金の減少に基く手許資金不足に各金融機関共貸出を引締めているが(札幌、小樽、秋田、金沢、京都、熊本)、事業者も亦封鎖貸出を嫌い借入の申込も減少している(松本、門司)。然し低順位産業のみならず、高順位産業に於ても公定価格の全面的改訂を目前に控えて製品を抱込を行つてゐる為貸出の回収は特に困難を加えて來て居り(大阪)、復興金融金庫の支所並に代理店の貸出は益々増加しつゝある。地方銀行の共同融資はそれが低利且つ長期に亘る外、金額も大きく此の爲小口貸出困難となり地元産業育成を阻むものとして一般に氣乗り薄である(札幌、名古屋)。

尚貸出金利は物価昂騰による金融機関の経費増高と融資制限による収益の減少を反映して昂騰を続け、平均金利は日歩一銭九厘乃至二銭二厘、最高二銭六厘乃至三銭と前月に比し二厘方騰貴しているが(仙台、福島、名古屋)、殊に最近は關金利に引きずられる傾向が顕著となつてゐる(松山)。

四、市中金融機關の金繰

政府資金の撒布は再び増加し、自由預金の漸増、貸出の引締めを見たものゝ市中銀行の手許は依然窮屈を叩つて居る。殊に農林中央金庫各支所は超過供出米代金支払と傘下農業会の預金支払に繁忙を極めて居るが、本所よりの送金不円滑の爲め農業会の中には、預金払戻の困難を訴える向も尠くない(金沢、松山、富山)。斯る事情は自由預金の吸収に多大の支障を与える許りではなく、農業会預金が漸次系統機關外へ流出することゝなる(名古屋、岡山)。事実愛媛県に於ては同金庫出張所に対する預金払戻請求が旺盛なるに拘らず、農業会の銀行預金は何等減少を示していない(松山)。尚最近に於ける農業会は財産税、増加所得税、春耕資金等による貯金引出が顯著なる上、報償用物資、肥料等購買事業部門に多額の資金を投入して居り、之が爲め農林中央金庫の金繰を困難ならしめている(松山)。

五、通 貨

本行各支店に於ける銀行券の増勢を見るに、都会地たる大阪、神戸、名古屋及び炭鉱を控えた札幌、福岡等諸支店に於ては前月に劣らざるものがあつたが、農産物供出の一応終了した農村方面では発行超過高も概して減少を示し、前橋、甲府、京都の三支店に於ては還収超過を示した程である。

六、物 価

物価引下運動も仕入品が殆んど東京、大阪等大都市の生産者に依存している地方では、結局小売商のみ犠牲になるに過ぎぬとし、之に對し極めて消極的であり(函館、青森、前橋、松本、松江、仙台)、他方遅配による食糧品価格の値上りは著しく(前橋、秋田、鹿児島、神戸、広島)、米価も一升関西地方に於ては百四十円より二百円(神戸、大阪)四国地方に於ても百二十円より百五十円に暴騰し(高松、高知)、之に伴れ織維品、建築材料其他生活必需品も昂騰の一途を辿つて居る(名古屋)。然し一般の購買力減退も著しく、商店に於ける売上も三、四月頃に比し一、二割方低下し(秋田、神戸)、必需品以外のものは茶碗、下駄の二割乃至四割、酒、煙草、家具の一割乃至二割等夫々下落を示している(名古屋、鹿児島)。(黒崎)

六 月 中

一、概 況

片山新内閣の經濟緊急対策に對してはその具體的實現化を要望しているが(各店)、炭礦の國家管理案に對しては北九州方面を中心に反對の氣運が強い(福岡)。只通貨面に對しては荒療治回避の方針が明かとなり、通貨不安は薄らいだことが窺はれる(松江、松山)。然し主食の遅配累計日数は六月末に於て北海道五十一日(小樽、函館)北九州二十五日(門司、福岡)と累増し、食糧不安は愈々深刻化しつつある。斯くて米の闇値は日に増し暴騰し、物価引下運動は全く立消えとなつてしまつた(各店)。

二、民間貿易再開許可の反響

対日民間貿易八月十五日より再開許可の朗報は貿易業者並に各地の輸出産業業者に異常の反響を喚び、各地に早くも貿易振興協會等が設立された(各店)。又輸出品検査所の設置計画や(仙台)、貿易代表団の接待、輸出品展示会等の準備が進められている(仙台、神戸、松江)。然し乍ら輸出品と目されるものは何れも諸雜貨類で、メーカーの大半は家内工業の域を脱せず、極度の資金難に陥つて居る(各店)。尚メーカーの中には貿易庁の価格査定が何うなるか予測付かざる爲採算の立て様なく(門司、前橋)、消極的態度を持する向もある(新潟)。一方阪神地方の貿易業者も、輸出品の品質低下し居る上、外国商人が内地のメーカーと直接取引をするにせば、外国商社の走り使ひに身を墮す外なしと悲觀している(大阪、神戸)。

三、預 金

今月に入り一般自由預金は顯著な増加を示し(小樽、静岡、金沢、神戸、高松、松江)、殊に大阪組合銀行の如きは年初來最高の伸びを示した(大阪)。之は(1)通貨不安が薄らいだこと、(2)五日より十四日迄行はれた貯蓄強調旬間に於て、金融機關が金融緊急措置令改正により生じた人的余裕を貯蓄勧誘に振り向けたこと、(3)六月十日より七月十日迄の間に十八億円獲得を目標として開始された無記名福徳定期預金の賞品が人気を呼び、成績極めて良好であつたこと等によるものと思はれる(各店)。然し乍ら斯くの如き一般自由預金の増加も月末に於ける粉飾によ

る所が尠くない。即ち大阪組合銀行の月末一日の一般自由預金増加額は八億五千六百万円と月中増加額九億八千六百万円の八一%に当つて居り、月末預金残高の増加がそれだけ実質的に銀行手許を潤したとは受取り難い(大阪)。

尚秋田、新潟、福島等の米産地に於ける一般自由預金は依然伸び悩み状態にあり、殊に農業会貯金は供出用米の買入資金引出等の為激減して居り(秋田、仙台)、無記名定期預金は無記名福徳定期預金に圧されたこと、六割課税が祟つて東京、大阪の如き大都市以外は不振であつた(各店)。

次に封鎖預金の引出は急減し、銀行の資金繰りに相当の裕りを与へたが(函館、金沢、大阪)、之は生活費引出未済分が五月中に大半引出され、生活費引出制限の効果が本月如実に現はれたことに基いている(函館)。

四、貸 出

政府支払の遅延、事業経営の赤字増大、公債引上見越に基く手持資材の売惜み、地方財政の窮乏化等に加へ、春蘭の出廻期に入りたることとて事業資金の需要は愈々増加し、市中銀行の貸出は顕著な増高を示した(大阪、神戸)。殊に大阪組合銀行の如きは月中の増加高十三億六千七百万円と最近三ヶ月間平均増加高四億五千万円の三倍に達した(大阪)。之は市中銀行が貸出規制強化を見越し、貸出枠を使ひ切ろうとしたことにもよるものと見られる(大阪)。又地方財政の窮乏化に伴ひ県、市町村等公共団体に対する貸出増加も著しく(仙台、松本、神戸)、重点産業に対する資金供給を圧迫している。

尚中央に於て企画中と伝へられる貸出金利最高制限に対し、地銀筋では経営コストの観点より反対し、仮令公定する場合と雖も地方事情を考慮して、ある程度の幅を持たせ、運用は専ら日本銀行に一任する等の措置を望んでいる(小樽)。又公団金融が復興金融庫担当となれば復興金融債券の利率は引上げてもらはねばならぬとの声が強い(小樽)。

五、通 貨

政府支払の減少と自由預金の増勢により日本銀行券の発行超過は比較的尠く、支店によつては久し振りに還収超過を示したものも見受られた(青森、高松、松江)。

六、物 価

右の如く通貨の膨脹傾向は稍鈍化せるに拘らず、主食品は遅配累計日数の増大に依じて暴騰し、米の闇値は阪神地方一升二百五十円(大阪)その他の中小都市に於て百五十円と昂騰した(甲府)。食糧品以外のものは公債改定待ちに荷動き鈍く、従来如き著騰は見られないが、公債引上を契機として急騰する気運を孕んでいる(大阪)。斯くて物価引下運動は何日の間にか立ち消えとなり、一般大衆の不安焦燥は愈々高まつて来た(各店)。(安斎)

(本稿作成迄に札幌、名古屋、京都、岡山、広島、熊本、鹿児島各支店の報告未着に付き参照を省略した。)

昭和二十二年七月——九月

七 月 中

一、概 況

経済実相報告書の発表は我国初めての試みであり、その卒直さは一般に好感を以て迎えられたが(門司、松山、甲府、仙台、福島)経済危機に対処すべき政府の具体的な対策が明示されていない為徒らに前途に対する不安を募らせたかの感がある(各店)。之に引続き新物価体系の発表を見、公定価格の大幅引上が行われたが直接日常生活に響く問題だけに一般大衆の関心は之に集中せられた(各店)折柄主食の遅配欠配は益々激しくなつて来た為、貸銀引上要求は再び熾烈化し(青森、松山、新潟)、物価と貸銀の同時安は早くも困難視されるに至り、先高見越気運濃厚である(名古屋)。又貿易再開を機とし平価切下が実施されるとの風説は根強く伝へられたが(門司)、蔵相の声明に漸く下火となつた(神戸、松本)。

二、預 金

銀行方面の一般自由預金は、最近にない著増を示した前月に比しその増勢稍々鈍化した(門司、松江、甲府、金沢、静岡、秋田、京都)。之を名古屋市内組合銀行の新勘定預金に就て見るも、月中の増加額は一八〇百万円に止まり、六月中の五〇〇百万円に比し、格段の減退振りを示している(名古屋)。従つて融資規制に